

# 今週のホタテガイ貝毒検査結果

作成年月日 令和元年9月18日

JF岩手漁連 業務部販売課

毒種	採捕海域	採捕定点	検体名	採捕・搬入月日		検査結果	プランクトン数 (cell/L)	前回計測 プランクトン数	規制・解除月日	
				採捕日	判明月日				規 制	解 除
麻痺性	北 部	野 田	ホタテガイ	9月16日	9月17日	2.0MU/g未満	0	(10)		
	中 北 部	日 出 島	ホタテガイ	9月16日	9月17日	2.0MU/g未満	0	0		
	宮 古 湾	臼 木	ホタテガイ	9月16日	9月17日	2.0MU/g未満	0	0		
	山 田 湾	山 田 湾	ホタテガイ	9月16日	9月17日	2.0MU/g未満	0	0		
	中 部	船 越 湾	ホタテガイ	9月16日	9月17日	2.0MU/g未満	0	0		
	大 槌 湾	大 槌	ホタテガイ	9月16日	9月17日	2.0MU/g未満	0	0		
	釜 石 湾	白 浜 沖	ホタテガイ	9月16日	9月17日	2.8MU/g	0	0	(ほたてがい) 平成30年3月6日 (まぼや) 平成30年7月31日	(ほたてがい) 令和元年9月3日 (まぼや) 平成31年4月2日
	中 南 部	唐 丹 町	ホタテガイ	9月16日	9月17日	2.0MU/g未満	0	0		
	三 陸 町	越 喜 来	ホタテガイ	9月16日	9月17日	2.0MU/g未満	0	0		
	大 船 渡 湾 部 大 東	千 丸	ホタテガイ	9月16日	9月17日	-	0	0	(ほたてがい) 令和元年6月4日	(ほたてがい) 令和元年9月10日
	大 船 渡 湾 部 大 西	蛸 ノ 浦	ホタテガイ	9月16日	9月17日	13.0MU/g	0	0	(ほたてがい) 平成31年4月2日 (いわがき) 令和元年5月8日 (あさり) 令和元年5月8日 (まがき) 令和元年5月21日	(いわがき) 令和元年7月2日 (まがき) 令和元年6月11日
		珊 瑚 島	ホタテガイ	9月16日	9月17日	14.0MU/g	0	0		
南 部	広 田	ホタテガイ	9月16日	9月17日	2.0MU/g未満	0	0	(ほたてがい) 令和元年6月11日	(ほたてがい) 令和元年7月3日	
下痢性	北 部	野 田	ホタテガイ	9月16日	9月17日	0.08mgOA当量/kg	0	10(20)		
	中 北 部	日 出 島	ホタテガイ	9月16日	9月17日	0.04mgOA当量/kg	0	0		
	宮 古 湾	臼 木	ホタテガイ	9月16日	9月17日	0.04mgOA当量/kg	0	10(10)		
	山 田 湾	山 田 湾	ホタテガイ	9月16日	9月17日	0.02mgOA当量/kg	0	10	(アカザラガイ) 令和元年6月11日 (ムラサキガイ) 令和元年6月11日	(アカザラガイ) 令和元年7月24日 (ムラサキガイ) 令和元年8月13日
	中 部	船 越 湾	ホタテガイ	9月16日	9月17日	0.07mgOA当量/kg	0	0		
	大 槌 湾	大 槌	ホタテガイ	9月16日	9月17日	0.01mgOA当量/kg	(10)	10(20)		
	釜 石 湾	白 浜 沖	ホタテガイ	9月16日	9月17日	0.02mgOA当量/kg	10(10)	0		
	中 南 部	唐 丹 町	ホタテガイ	9月16日	9月17日	0.02mgOA当量/kg	0	10(20)		
	三 陸 町	越 喜 来	ホタテガイ	9月16日	9月17日	0.02mgOA当量/kg	10(30)	10(10)		
	大 船 渡 湾 部 大 東	千 丸	ホタテガイ	9月16日	9月17日	-	0	0		
	大 船 渡 湾 部 大 西	蛸 ノ 浦	ホタテガイ	9月16日	9月17日	-	0	0		
		珊 瑚 島	ホタテガイ	9月16日	9月17日	-	0	20		
南 部	広 田	ホタテガイ	9月16日	9月17日	0.08mgOA当量/kg	10	(10)	(ほたてがい) 令和元年6月4日 (エゾイシカゲガイ) 令和元年6月25日	(ほたてがい) 令和元年7月3日 (エゾイシカゲガイ) 令和元年7月17日	

※下痢性貝毒プランクトンのディノフィシス・アキュミナータ (D. a) は、括弧内( )に出現数を示している。

出荷自主規制値 麻痺性:4.0MU/g(可食部)  
下痢性:0.16mgOA当量/kg(可食部)

### 《ホタテガイの貝毒について》

☆ 貝毒には下痢性と麻痺性の2種類があり、いずれも海水中に毒をもったプランクトンが増え、これをホタテガイなどの貝類が食べることによって、毒が貝に移り、貝が毒をもつ場合があります。

☆ この毒をもったホタテガイなどを人間が食べると、下痢性貝毒では下痢・腹痛・嘔吐、麻痺性貝毒ではしびれ・麻痺・頭痛等の症状の中毒を起こします（細菌と違い、普通に煮たり焼いたりしても毒はほとんどなくなりません）。

### 《流通しているホタテガイは安全です！》

☆ 岩手県では県内を12の海域に区分して監視定点を設け、ほぼ毎週1回ホタテガイの貝毒検査を実施しており、その結果が国が定めた基準値を超えた場合は、その海域のホタテガイの出荷を規制していますので、スーパーなどで販売されているものは安全です。

### 《出荷自主規制値について》

☆ 出荷自主規制値は、麻痺性貝毒が4.0MU/g(可食部)、下痢性貝毒は0.16mgOA当量/kg(可食部)です。

☆ 1MU/g(マウスユニットパーグラム)とは、麻痺性貝毒に関して、ホタテガイ等の貝類の可食部1g当たりの抽出液をねずみに注射したとき、15分間で死亡させる毒量を指します。一方、0A当量/kg(オカダ酸当量パーキログラム)とは、下痢性貝毒に関して、貝類の可食部の抽出液から機器分析法によって得られる毒量を指し、国によりその規制値は0.16mgOA当量/kgと定められています。なお、平成27年3月6日から国の規制値が見直され、下痢性貝毒に関しては、0.05MU/gであったものが0.16mgOA当量/kgとなりましたが、新たな検査体制が整うまでの間は従来の規制値(0.05MU/g)を用いてよいこととされており、岩手県では、当面の間、従来の規制値と新たな規制値(0.16mgOA当量/kg)を併用して検査を実施します。

☆ 検査の結果、規制値未満で3週間経過すると、再び出荷できるようになります。

### 《貝毒の原因となるプランクトンについて》

☆ 貝毒の原因となるプランクトンは、麻痺性貝毒と下痢性貝毒で異なります。貝毒の原因となる主なプランクトンとしては、麻痺性はアレキサンドリウムタマレンセとアレキサンドリウムカテネラ、下痢性はディノフィシスフォルティとディノフィシスアキュミナータが岩手県の海域では一般的です。ディノフィシスアキュミナータは( )内に出現数を表示しております。

☆ この調査では、海水1リットルを採水し、主に上記のプランクトン(麻痺性はタマレンセとカテネラの合計数)が1リットル中にどの位の数が存在するかを調査します。なお、上記以外の貝毒の原因となるプランクトンが検出された場合にも、その結果の合計数を表示します。

☆ 採水方法

釜石湾海域：固定層採水(水深10m)

〃以外の11海域：柱状採水(水深0~10m)